

2019年10月29日

都市を木質化する外壁カバー工法「MARC SYSTEM (マークシステム)」が ウッドデザイン賞 2019 を受賞

ニチハ株式会社（本社：名古屋市、社長：山中龍夫）は、この度、ウッドデザイン賞 2019（主催：ウッドデザイン賞運営事務局 林野庁補助事業）において、都市を木質化する外壁カバー工法「MARC SYSTEM (マークシステム)」が同賞を受賞しました。

戸建住宅の約7割以上に使用される窯業系外壁材ですが、中高層建築物においては施工方法等の理由により使用は困難な状況にありました。弊社では約10年前よりその課題に対し独自に研究開発を行い、2018年10月より、RC躯体に専用部材を用いる外壁カバー工法「MARC SYSTEM」において、鉄筋コンクリート造への、外壁重ね張り施工の高さ基準を、45m規模にまで拡大いたしました。これにより、国産木材チップとセメント系原料を組み合わせた弊社独自の窯業系外壁材「オフセットサイディング」の使用により、都市における中高層建築物の外装の木質化を実現するとともに、新築のみならずリフォームでは、タイル等の既存外壁をサイディングで覆うことで、建物の老朽化に伴う既存外壁の剥離・落下に対する安全性も確保します。

サイディングならではの意匠性の高さが新たな付加価値を生み出し、高耐候性による長期スパンのメンテナンスの優位性に加え、建築ファサードの燃えひろがり試験『AS5113』に合格した、防耐火性能に優れた外壁材として、中高層分野における外装の選択肢を一気に広げます。今後もより一層、建築ストックの課題解決に寄与する「MARC SYSTEM」を業界へ周知するとともに、工法の拡充を推進していきます。

弊社では、2015年「カーボンオフセットサイディング」『Fu-ge』、2016年「COOL」、2017年『官・民・民による地域型CSVエコシステム【地方創生×国産材利用】』、2018年「オフセットサイディング『プレミアムシリーズ』」に続き、5年連続の受賞となります。今後もウッドデザイン賞の主旨に賛同し、国産材の利用推進に努めてまいります。

- 受賞作品：都市を木質化する外壁カバー工法「MARC SYSTEM (マークシステム)」
- 受賞部門：ソーシャルデザイン部門 技術・研究分野
- 応募団体：ニチハ株式会社
- 作品概要：窯業系外装材における標準施工の高さ制限16mを、独自工法MARC SYSTEMにより45m規模まで拡大。中高層建築物への施工が可能となり、オフセットサイディングを使用することで都市を木質化する。新築・リフォーム問わず外観の意匠性を高め、老朽化に対する安全性確保など建築ストックの課題解決にも寄与する。

